

福祉コミュニティエリア整備に係る 基本的な考え方

福祉コミュニティエリア整備に係る背景

- 函館市は、全国的に見ても早いスピードで少子高齢化が進行し、「団塊の世代」の高齢化に伴い今後20年程度はさらに高齢化率の上昇が見込まれる。
- 高齢者人口の増加に加え、障がい者も増加傾向にある中、核家族化や地域の交流は希薄になり、福祉サービスへの要望は多様・高度化している。
- すべての人が地域のなかでいきいきと暮らしつづけるにはどうすればよいか・・・？

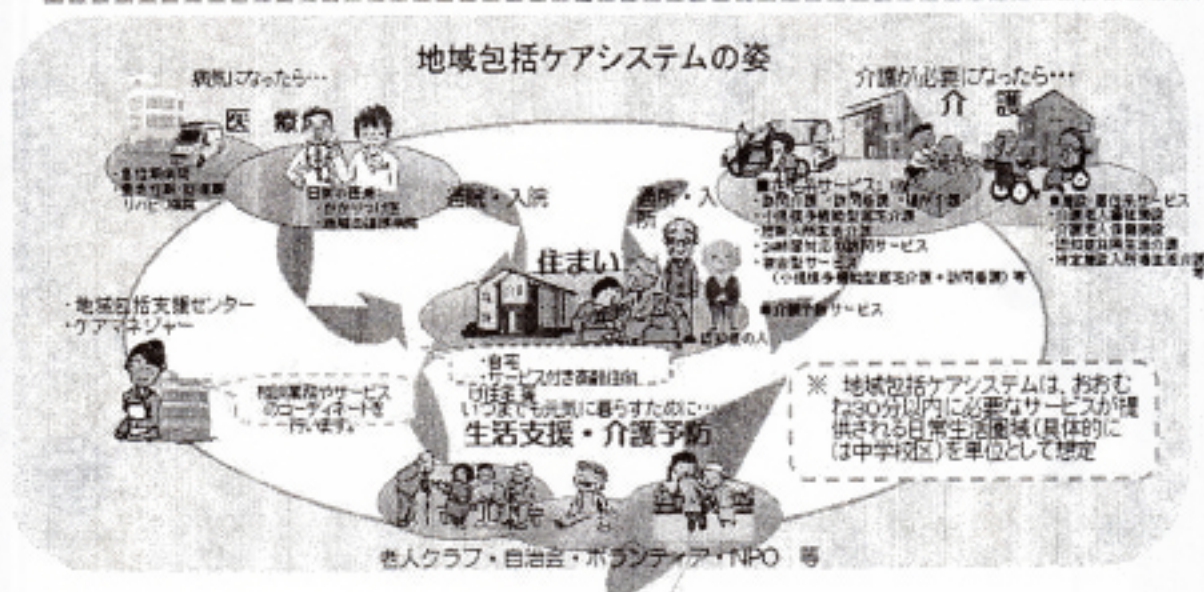


そのためには・・・



地域福祉の実践と地域包括ケアシステムの構築

- 公的なサービスの充実だけでなく、市民やボランティア、企業など地域全体が主体となって支え合う地域福祉の実践が必要。
- 住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、住まいや医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が求められる。



函館市の概要

- 北海道南端部に位置する道内では温暖な地域。
- 平成16年に東部4町村と合併、平成17年には中核市に移行。
- 高速自動車道や函館港、函館空港など陸・海・空の交通基盤整備が進み、国内外との交流が活発化。平成27年度の北海道新幹線開業でさらなる交流の拡大が期待されている。

●人口（平成26年8月末現在）

272,228人

高齢者人口（65歳以上）

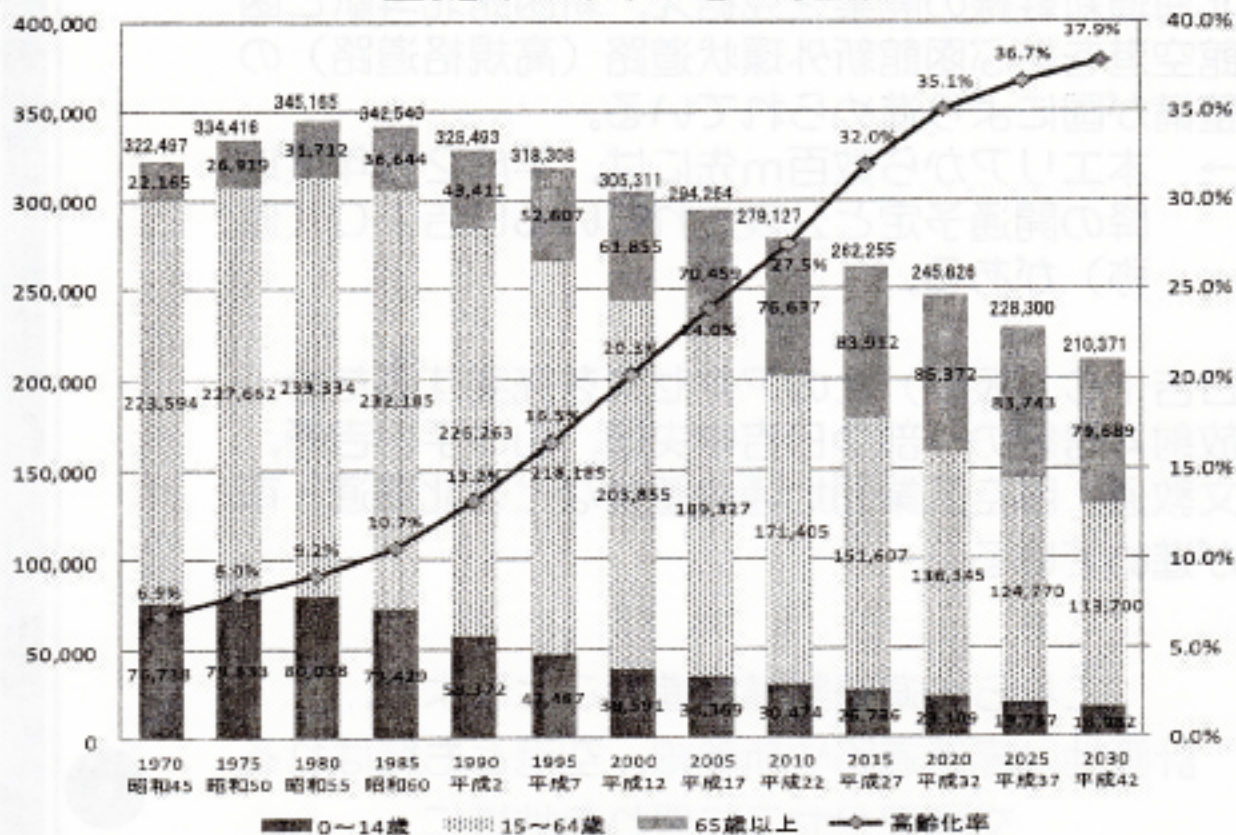
83,325人

高齢化率

30.6%



函館市の人口等の推移



計画地の現状

- 計画地は、旧北高等学校の北側にある約7万㎡の市有地
(旧日吉4丁目団地)



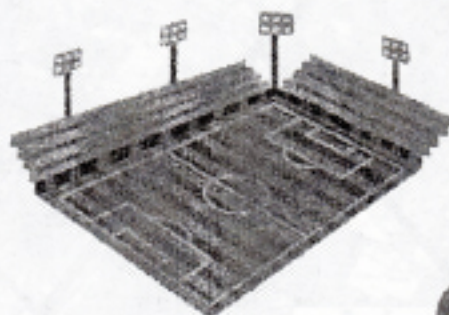
- 北海道新幹線の開業を見据え、新函館北斗駅と函館空港を結ぶ函館新外環状道路（高規格道路）の整備が国により進められている。
→ 本エリアから数百m先には、平成28年度以降の開通予定と公表されている日吉IC（仮称）がある。
- 日吉IC（仮称）とのアクセスを充実するため、放射4号線の一部や日吉中央通、山の手日吉通、文教通、臨空工業団地通の整備などを北海道・市が進めている。

これらの道路整備が進むことにより、
計画地は高速道路や新幹線、空港とも結ばれる
交通アクセスに優れた地域に

6

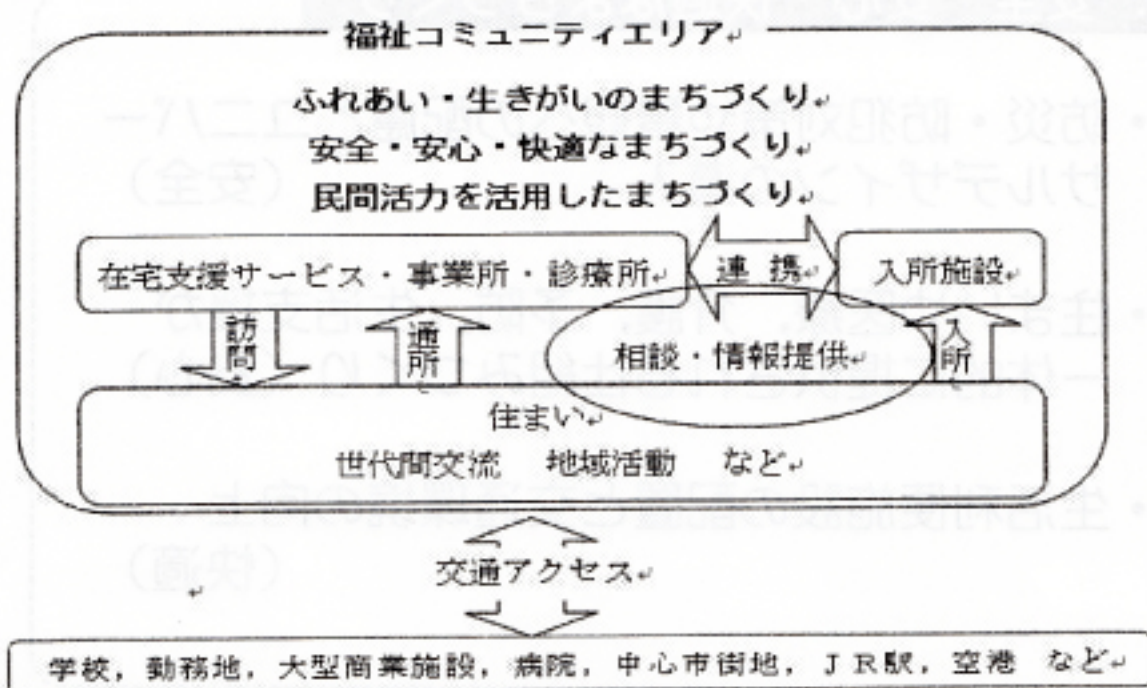
生活の計画性

- 計画地周辺には公園やサッカーグラウンド、テニスコートがある。また、サッカーラグビー兼用グラウンドやフットサルコート、ランニングコースの整備が進んでおり、レクリエーション機能も充実
- 路線バスは市内各方面へのバスが一日約300便
中心市街地へアクセスしやすく利便性が高い



7

整備イメージと実現に向けた視点



8

1. ふれあい・生きがいのまちづくり

- 世代や障がいを超えて誰もが等しくふれあえる仕組みづくり
- ボランティア活動など，一人ひとりが社会の一員として活動できる仕組みづくり
- 心身が健康で，いつまでもいきいきと活動できる仕組みづくり

9

2. 安全・安心・快適なまちづくり

- 防災・防犯対策や景観への配慮とユニバーサルデザインの導入 (安全)
- 住まいや医療, 介護, 予防, 生活支援が一体的に提供される仕組みづくり (安心)
- 生活利便施設の配置と交通環境の向上 (快適)

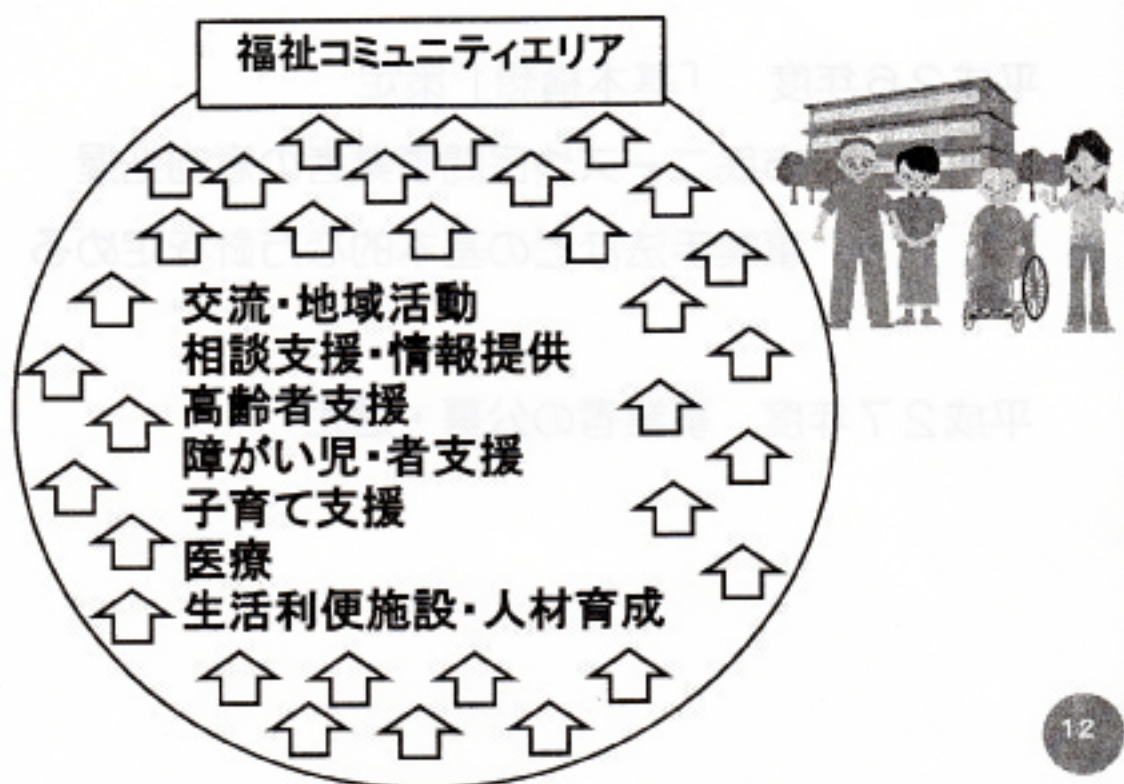
10

3. 民間活力を活かしたまちづくり

- 統一的なコンセプトに沿った一体的な事業の実現
- 事業全体をコーディネートできる体制の構築
- 民間主導による継続的な事業運営

11

想定される機能・施設



12

事業実現に向けた課題

事業を実現するには質の高いソフト事業とハード整備を効果的、効率的に組み合わせ、全体をコーディネートしていくことが重要

そのためには、民間事業者の持つ人材、ノウハウ、資金等を最大限に活用することが望ましい

- (1) 市民ニーズの把握
- (2) 民間事業者の意向把握
- (3) 介護保険事業計画との整合性
- (4) 土地利用
- (5) 土地の扱い
- (6) インフラ整備

13

今後のスケジュール

平成26年度 「基本構想」策定

- ・ 市民ニーズや民間事業者の意向把握
- ・ 事業手法などの基本的な方針を定める

平成27年度 事業者の公募・選定